

紫 筍

第 30 号



(文京花壇)

都立文京高等学校同窓会会誌

昭和62年12月 1 日刊

目次

表紙写真（昭和61・11・22）文京花壇……………表1
 目次・奨学金申込者……………表2
 我が同窓会々々長：渡辺剛彰さん……………1～3
 霧多布、春未だし…小椋昭三……………3～4
 紫雲祭（音楽部・百米走・級団演技）……………5
 三十周年を記念して…8期・鈴木秀男……………6
 8期同期会写真・異動の教職員……………7
 第六回現旧教職員の集い……………8～9
 御逝去…森 章 十代目校長先生
 （昭和52年～57年）……………10
 紫雲祭（走り高とび・千五百米走）……………11
 母校、校舎改築の歩み…西岡 弘……………12
 紫雲祭（千米走・級団リレー）……………13
 進学状況・就職状況……………14～15
 同窓会・協賛者名刺……………16・表3
 会計報告……………表4

奨学金申込者

（一口五千元）

前島 茂雄（一D）	河野 毅（4C）
福山 裕之（四C）	右高 研至（5F）
深堀 幸彦（16G）	仲田 達男（三D）
渡辺 吉章（21G）	古屋 晴吉（二A）
阪本 真也（36C）	富田 久子（14E）
橋本 嘉夫（二D）	和田 匡弘（38B）
湖山 聖道（二A）	長岡 康子（27H）
前島 秀木（6E）	内山 盛雄（11A）
村主 昌義（3E）	柴崎 英一（2B）
赤木 久（26B）	山田 昭夫（12C）
桜井 清（7D）	江口雄次郎（3B）
神戸 善裕（3C）	桑原 範子（20A）
鈴木 秀男（8B）	中村 昌男（5E）
中野 進司（5C）	鈴木 勲（一A）
佐藤 幸雄（二B）	関根 秀次（9C）
内田 忠敬（8D）	堀口 壬也（二B）
亀谷 眞夫（一C）	秋山 一穂（二A）
高田 昌展（10B）	川村 幸夫（24D）
堀田慶三郎（22C）	松原 紀之（11A）
菅場忠一郎（二B）	福永 頌（5B）
山中 和子（10A）	羽場 弘明（27C）
大辻 正寛（7D）	上村 美幸（32I）
	青木 一郎（6B）
	荒井 義三（15C）
	高橋 昌平（1A・B）

一口

三田 康久（四A）
 白井 健（22D）
 森 有功（3A）
 大堂 和弘（一A）
 渥美 精一（4B）
 大場みよ子（22A）
 （前号後から62年9月まで
 に送付頂いた分）

毎年卒業生の中から、文京生として奨学にふさわしい成果を残された方に贈られています。62年度は一万円の図書券を16名の方にさし上げました。今後の活躍を期待いたします。
 （基金の利息相当額を中心に行っています）

御注意

—新聞広告協賛の件—
 母校でも、同窓会でも、卒業生に対し、広告社を通じ、例えば野球部協賛のため新聞に掲載する等の依頼は一切していません。振込先が同窓会宛でない依頼はいたしませんので、お含み下さい。

我等の

同窓会会長

一期A組 渡辺剛彰さん

プロフィール

旧制都立豊島中学（文京の前身）第一期A組卒業。卒業後、東大文学部へ。得意の記憶力を生かして司法試験をパス。家業である弁護士を継ぐ一方、日本吟道学院総裁として、忙しい毎日を通しておられる。記憶力では「試験の神様」とされ、参考書も数多く書かれています。当校同窓会々長。



今回の直撃インタビューは、一方では日本吟道学院総裁、一方では弁護士、一方では試験の神様と様々な方面で御活躍なさる渡辺剛彰さんです。本校同窓会々長ということもあり、文京高校のエピソードや現在に至るまでの話、現在なさっているお仕事など、いろいろとお伺いしました。

大変お忙しい中を一時間半にわたりインタビューに応じて頂きました。どうもありがとうございました。

Q、当時の文京はどのような感じでしたか。

A、昭和15年5月1日第三東京市立中学校として創立しました。入ると大きなしいの木があるでしょう。あの裏側に木造の二階建ての校舎があつて、一階が職員室などで、二階が教室；当時はA・Dの4クラスで生徒数が二百名ちょっとでした。文京ができる前は、現在、板橋の大山にある養育院が、孤児院としてあつて、文京ができた頃は、まだその孤児院は全部引越していなくなつたんです。

そして、今のように福祉が発達してないので、汚ないの汚なくないのって(?)おまけに教室には南京虫がいて、授業中にさされて、かゆかったのを覚えています。でも、みんなで掃除をして、だいぶきれいになりましたよ。

それと、うかうかしていると、物がなくなるとですよ。養育院には苦しい子供達だけでしたから、いつのまにか無くなるんですよ。これには困りました。でも、養育院があつたため、当時としては珍しい給食を食べること

ができました。ところが、出るものがまずくて食べず嫌いの多かつた人は、目つむつて食べてましたよ。

Q、勉強のほうは、どうでしたか？

A、当時は、戦時中ということと、新設校ということもあり、先生方は非常に厳しかったですね。校長の川島源司先生は、生徒だけでなく先生にも厳しい人でしたし、学校には限る専門という感じの先生もいました。しかし、先生方は熱心で、出来の悪い人は遅くまで残されたのではないのでしょうか。

それに当時は軍需工場へ学徒動員といつて、一週間から十日ぐらい勤労奉仕をするということがありましたが、工場が終わつてから授業をするということもあつたと思いますよ。とにかく厳しかった。軍隊色一色でしたから授業の中に射撃とか銃剣術とかいつた軍事訓練みたいな授業もありました。

それから、富士山のふもとにある兵舎のような軍の学校で、一週間ぐらい演習をする

いうこともありました。熱心な人は、空砲の銃で演習をしていましたけれど、僕なんかさばりだったし、富士のふもとなので、穴がいっぱいあったからその中へ入って一日中、本を読んだり乾パンをかじって、夕方になると帰るなんてこともやりましたよ。(笑)

忙しい世の中だったとはいえ戦争へ行くわけでもないで、学校は勉強するにはいいところでしたし、医大へ進めば戦争へ行く心配がないとかで医大志望が多かったりで、進学率も超一流で、200人中30人以上が東大へ行ったんじゃないですか。

ただ、変わったところがあって、先生も生徒も運動パンツ一枚になって、号令に合わせて乾布まさつをして、その後で学校のまわりを校長が先頭になって「ワツシヨイノワツシヨイノ」とかけ声をかけて列をなして走ったんですよ。(笑)夏だけでなく冬もやりました。後に、当時の先生方による裸の会なんていうのもあるんです。(笑)

Q、クラブ活動はどうでしたか。

A、当時は、ユニークな部として相撲部なんてのがあって、すもう取りが来て指導していたなんて話を聞きますが、私は陸上部に入りました。しかし途中で辞めて、詩吟部に入りました。これがかっかけて、今の仕事をやっ

ているようなところもありますけどもね。他に、サッカー、ラグビー、プラスチックなどがあつたみたいですよ。

Q、現在のお仕事について。弁護士をなさっているとお伺いしましたが。

A、弁護士は昭和29年開業で、もう古株のほうになりましてね33年やっています。もともと父が大正時代から弁護士をしていたので、その後を継いだんです。

Q、どのような相談が多いですか。

A、私の扱っているのは民事なので最近では相続の相談が多くなっていますよ。

Q、どのくらいの相談がありますか。
A、あまり専門的にやっていないので、週に数件といったところです。

忙しいのは弁護士よりも日本吟道学院のほうで、文部大臣の認可を受けて詩吟の免状の発行をしているんです。毎日毎日、小包にして年三万通の免状を出しているんです。そして数が多ければ、免状式などもやるので、日本各地の50ヶ所ある支部をまわるだけでも、休みの日がつぶれちゃって、休日には殆んど家にいませんね。そのうえ、詩吟のテキストの原稿書きもあって大変です。

他に出版社からの原稿依頼も来るんです。というのは、前に日本一大賞というテレビで

記憶力で日本一になりまして、それから記憶に関する本の原稿を書いているんですよ。記憶術の講習会も年一回やりましたが、年々希望者が増えて今年は二回開くことになりました。

予備校に特別講師として行ったことがありましたが、九百人入れるホールに千百人の人が入ったなんてこともありました。記憶術を用いた参考書も書いたりするもんですから、この年になつても中学で習ったことを忘れるひまがないんです。

Q、健康法について。これだけお忙しい中で健康には何か注意なさっていますか。

A、健康そのもので、未だかつて病気をしたことも、する気配もありません。というのは中学のときの裸体操の乾布まさつを今もずっとやっているんですよ、真夏だけでなく、真冬もですよ。(すこい)最近は、それでは生ぬるいノというので、ペットシヨップの犬ブラシで体をこするんですよ。(笑)

A、痛くないですか。

Q、痛い、そんなでもないですよ、これで体を力一杯こするんですよ。不思議なもので仮に飲みすぎたとすると、お腹とか肝臓をこするとか体の調子の悪いところをこすると、すつと治るんですよ。それどころか頭のさえな

霧多布、春未だし

— 湿原は深い眠りの中 —

二期B組卒 小椋昭三

無所属洋画家。個展7回。市三会々員。芦屋市出身。東京美術学校油絵科・梅原教室に学ぶ。アムステルダム一年遊学（一九六四年）。富士見市美術協会初代会長。NHK絵画教室創設に参加。講師。北海道厚岸郡浜中町霧多布にアトリエ移転（五八年五月）。浜中町総合文化センター大ホール縦張（14×6米）の原画制作。Tel 一五三・三三三〇

霧多布の飲食店が立並ぶダウンタウンの一角に、ひなびたバスターミナルがある。



だ雪のこないときは、長靴をはいた女性が車内を掃除したり、運転手さんが車体をホースで水洗いしている姿をちよいちよいみかけたものだ。

いときに、これで頭をこすると頭がさえてく
るんですよ。
Q、頭に刺激を与えるんですか。

旅情かきたてる新鮮な風景

なぜか、こんな風景には親しみを憶えるものがある。釧路を基点に道東各地を鉄道やバスのご厄介になってよく歩いた。バスの場合はのんびり気軽というわけで始発に乗って、えんえんと揺られ終点の町まで…、こんな想い出も楽しいものだ。

見馴れぬ終点の町にバスが到着し、わずか数名の客がやおら立上って車外に散ると、突然に車掌さんが笛を鳴らし、バスを定位置に誘導する。バスのシルエツトが動く、今まさに落日の茜色が眼の前に、まばゆい夕陽が建物の蔭にかくれんばかり、電柱の古ぼけた電球もやつとほの明るくみえ出した、というような光景に出くわしたこともある。

このような、いつまで経っても新鮮な風景が脳裏にこびりついているので、ときに旅情をかきたて、矢も楯もということになる。少しこじつけ気味の話だが、都会の街路をひっきりなしに歩いてゆく通行人と、旅人（た

A、そう刺激を与えるんですよ。具合の悪いところの皮膚をこすることで血のめぐりが良くなるんですよ。よく効きますよ。

Q、同窓会々長として。同窓会の会長をなさ
っておりますが今までのようでしたか。

A、まず、名簿整理から始めました。空襲で校舎が焼けたので、それまでの資料がなく、誰が生徒だったか、わからなくなっていたのです。それでも、クラスの中で名簿を覚えていた人が、何人かいたので、そういった人達から聞いていって、だいたい身元がわかってきました。それから、一時は同窓会館を立てようなんて話もありましたよ。今はちよつと無理ですけど、何とか実現したいですね。

Q、最後に、これから文京で勉強する後輩や卒業生に、何かおっしゃりたいことがありましたらどうぞ。

A、文京生は、どこへ行っても、おとなしいというイメージがありますが、それが悪くなっているのは幸いだと思いますが、もう少しフアイトを出して意欲的に何でも頑張つて欲しいと思います。また、あと二年程で文京高校は創立50周年を迎えます。記念行事を盛大に行なう計画ですので、皆さんのご協力を伏してお願ひします。

（62年卒赤羽孝幸、横堀幸男インタビュー）

びびと)とどこが違うのであろうかと議論をしたことがある。本来の旅人は、謙虚な気持で立止まり、尋ね、わが身の上をその土地に置いて土地の人々とも交わり、目的の旅先に到着するまで行きつ戻りつするものであろう。そんなことをやっているうちに、仕舞には傍観者では得られぬその土地の何か熱いものを感じてくるものである。昔から「住めば都」「郷に入れば郷に従え」のたとえもこんなところに核心を同じくするのもかも知れない。

霧多布へ二*の標識を過ぎて町へ入る入口にはブルーの橋がある。この霧多布大橋は明るい色彩がまわりの自然のたたずまいに実によく調和している。高台からこのあたりを眺めると、浜中湾にあるかなしか橋桁がうつつて空や海と融け合っている。

つい酒呑み話にこの橋がお稲荷さんの鳥居のような色彩であったら、ひよっとして霧多布へ住まなかつたかも知れないとお喋りをした。旅人が土地の人と話題をもつのは案外このようなことが出発点となる。

雄大な琵琶瀬 展望台の展望

霧多布市の湿原について少し触れてみたい。まず展望のよいところは神町の高台近辺(

町営観光ホテル付近)と琵琶瀬展望台である。秋、冬の風景は淋しくも感じるが、雄大な一大パノラマを目の当りにすれば、日常茶飯事は失せてしまい頭の中が空っぽになってしま

う。国道を走って浜中より霧多布へ帰るときなど、眼下の湿原や遙か彼方の霧多布や小島、ケンボツキ島が見えると、帰ってきたという安堵感が疲れを吹き飛ばしてくれる。考えてみると、水のように平らな水平感の強い風景だからこそ安堵し落ちつくのだ。

立春は名ばかり。湿原は深く未だ眼りに陥っている。身を切るような北風が吹きすぎぶと雪の表面は乾いてやせるのであろうか。砂丘のように風が突走ったあとの風紋をつくった見渡す限りの雪原は哀しい。風だけでは無い。遮るものとして何一つない透徹した夜空が雪原をもっとも鍛えるのであろう。

しかし驚嘆することがある。キタヨシが穂の型を失わず何喰わぬ表情で立ち、強靱に耐え凌いでいることである。ハンノ木も然り。細い枝をからませ、怒髪天を衝くが如しである。

海へ注ぐ幾つもの川はすっかり凍てつき、太古の昔から、優しく美しい曲線をつくってきた二番川もさすがに今は生気がない。注意

してみると氷の下の川底を潮が押し上げ潮るのか、光りが屈折し微妙な色合いをみせている。それもこれも湿原が演ずるドラマである。湯沸(とうふつ)にのぼれば霧多布の燈台を中心に眼下に太平洋を眺望する。風が吹けば山のような大波が押し寄せるが、中には巴状になってしぶきをあげ、獣のように襲ってくる光景は恐しい。アイヌの叙事詩「ユークラ」は、上の波は下へ：下の波は上へ：とこの大波の有様を忠実にうたいあげている。

吹雪が、横なぐりにたたきつける日。こんな大荒れの日も漁して港にもどるスケソウ船がある。魚をはずす人たちは吹雪になぐられながらうつつむき、網から手際よく魚をはずしてゆく。冬の風物詩などといっておれない動的な鮮烈なものである。その夜、かつてない窓をたたたく雪のしわがれ声と、無気味な霧笛の遠吠えが夜通しあつた。(霧多布在住)

湿原の誕生

あるとき 深いおむりから 湿原は
よみがえり 春を告ぐ

やがて きまざまに花は
ほころび 小鳥は草の茂みや
樹上高く うたう

湿原は 過去 現在 未来の
すべてをつつみ 育み 息づく
偉大な愛の象徴

湿原は
自然が織りなす じゅうたん
攝理を尊び 互いの調和をはかり
永遠に うまし水 たたえん

小椋 昭三

文京名ピアニスト 安達陽一君



文京祭で熱唱する 上野未央さん



百米競走



級団演技

「三十年昔を偲んで」

昭和28年卒8期B組

鈴木秀男

今年二月、八期生は卒業後三十年を経て、はじめて同期会を開きました。クラス会を二、三年おきに開いていたクラスを中心に同期の仲間呼びかけたものです。各クラスから集り、出席者は五十人を越えました。先生方も田崎先生、橘先生、渡井先生、横山先生が出席され、楽しいひとときを過しました。

そのことを写真を添え同窓会本部に伝えたことから、三十年前の思い出書くことになりました。

その同期会でも話題になったことは、当時雑誌にも紹介された、モデルスクールとしての新しい校舎のことです。私が一年生のときの秋、落成式が行われました。(記念品の鶴の形をしたペーパーナイフは今も私の手にもあります。)

私もその一人ですが、かなり多くの者がその校舎にあこがれて文京高校を受験しました。私の記憶ではその年の受験倍率は男子は三倍で学区一の高率で私達は大いに期待されたのでしたが……

この文を書くため体育の日、母校を訪れて

みましたが私達の学んだ校舎が当時はなかった新しい校舎に囲まれ残っていて、ほっとしました。当時は大塚駅のホームがよくみえましたし、屋上からは、冬の晴れた日には、富士山、筑波の山も見えました。

もうひとつは、プールのがないのに水泳部があったことです。私も部員の一人でした。六月から九月まで、放課後になると都電に乗って、教育大の飛び込みプールへ通ったのです。濾過機もなく、いつ水をかえるかわからないようなプールでした。教育大の水泳部の練習の合い間の練習です。夏休みには、一般公開されその中二コースを借り切ったの練習でした。

今は、教育大と共にプールも無くなったことでしょう。母校には立派なプールもでき、水泳部もさぞ活躍していることでしょう。

(六十二年十月十一日記)

市三会

毎月十三日前後に、銀座を中心に、夕食を囲む親睦会を持って、すでに百数十回になっています。発足は昭和49年、末会長がまとめ役となつて今日に至っています。卒業生の有志の会ですので、入会御希望の方は末会長まで、お申込み下さい。(Tel 2611-5111)



(校長室にて市三会)

異

転

出

動

大橋 洋一	尾崎 恵子	上前 邦輝	広見 正剛	小野 高夫	柴崎 勉	太田 実
生物	英語	国語	体育	社会	数学	教頭
北高校(定)	桜水商業高校	赤城台高校	工芸高校	大泉北高校	城北高教頭(定)	京橋高校校長

栗原 會計
末 会長
横 檜
列 教頭
前 幹野 校長
田崎 先生
横山 先生



八期会30周年記念 昭和62年2月7日 茗溪会館にて

塩浜 眞理
為我井美恵子

新

数学
国語

任

小池 満 事務長 北高校
 斉藤 通夫 主事 板橋高校
 安田 弘美 主事 上野高校

三富 圭一 英語(囑託) 志村高
 小林 京子 助手 南高校
 永井 昌子 養護 北高校

外川 裕一 社会 足立養護学校
 滝口 則次 体育 南葛飾高校
 斉藤 弘之 英語 北豊島工業高校

横 学 転 入
 坂庭 真吾 教頭 城東高校 から
 砥工業高校
 北豊島工業高校

岡田 一美 事務長 牛込商業高校
 庄司 静枝 主事 王子工業高校
 山本 弘子 主事 忍岡高校

浜田 庫司 英語 上野高(定)
 本木 明子 養護 武蔵村山東高校
 佐久間克夫 助手 上野高(定)

第六回 現旧教職員の集い

62・11・14 視聴覚教室にて

敬称略させて頂きます。○印は現職の先生。

最上段

○中島 (体) 58

○安達 (体) 62

○滝口 (体) 62

○若林 (社) 49

○深沢 (体) 49

○亀井 (体) 41

○渡辺(秀)(体) 53

(山際)(体) 45

柴崎 (数) 47

樺沢 (数) 52

岡田(彌)(事) 24

桃原 (用) 32

○稻留 (数) 42

金子 (英) 19

坂本(育)(国) 36

田村 (国) 47

松浦 (英) 39

○林 (警) 50

上前 (国) 50

三列目

○村岡 (国) 60

○福本 (体) 56

○坂井 (化) 58

太田(三)(物) 42

金指 (物) 25

○前川 (物) 52

高田 (生) 35

佐々木(美)(家) 54

大畑 (日) 36

川井 (英) 22

橘 (世) 20

浅川 (事) 51

岩田 (生) 42

熊谷 (生) 46

勝俣 (国) 54

○高橋(勉)(用) 53

○遠藤 (P) 49

○吉見 (国) 53



二列目

○高山 (社) 57	○成瀬 (数) 42	石川 (浦) (世) 49	後藤 (国) 25	太田 (泰) (化) 36	竹村 (数) 18	横山 (数) 21	田崎 (国) 18	玉城 (数) 23	西川 (世) 34	西潟 (用) 31	築山 (音) 19	木村 (地) 38	渡井 (化) 21	山本 (事) 59	高瀬 (国) 45	○高山 (社) 57
}	}	}	}	}	}	}	}	}	}	}	}	}	}	}	}	}
61	56	59	53	59	44	51	47	52	43	43	56	59	52	61	61	61

前列

○渡部 (嶋) (地) 60	○榎 (数) 55	○西岡 (国) 23	岡田 (-) (事) 59	高橋 (英) (体) 40	石田 (長) 46	丸岡 (長) 38	稻崎 (長) 33	○紺野 (長) 60	古瀬 (長) 57	石川 (秀) (教) 52	○榎 (教) 62	高橋 (昭) (事) 21	飛沢 (事) 16	中田 (地) 22	○太田 (敏) (国) 45	○磯山	○藤倉	○坂庭	
}	}	}	}	}	}	}	}	}	}	}	}	}	}	}	}	}	}	}	}
60	55	23	59	49	49	43	37	60	60	58	62	21	18	54	45				

長||校長
教||教頭

以外の参加者
菅野 (日) 20 }
高野 (国) 53 } 36



御逝去 森 章 先生

〔履 歴〕

昭和9・3	谷中小学校卒
" 14・3	第二東京市立中学卒(現、上野高)
" 18・9	東京高等師範学校理科二部卒
" 18・10	海軍予備学生入隊、20・8解除
" 20・10	東京都立城南中学校教諭
" 42・4	" 小山台高等学校教諭
" 44・4	" 町田高等学校教頭
" 49・4	" 神津高等学校校長
" 52・4	" 文京高等学校校長
" 57・3	" 退職

弔 辞

森先生、今日こゝで先生とお別れするとは全く想ってもいけませんでした。今の今でも先生のお声が耳に聞こえてくるような気がいたします。



想えば先生との出会いは、私が三十九年四月都立城南高校に転動した時に始まります。先生は

当時教務主任として活躍しておられました。先生は常に緻密なプランナーとして無駄のない仕事をなさっておられ、いつも敬服しておりました。

先生は昭和二十年召集解除後の十月、旧制の城南中学に着任されて、以来二十二間にわたる城南高校での御勤務の後、二年間都立小山台高校で勤務に磨きをかけられ、昭和四十四年四月教頭として町田高校に栄転され、五年間勤務されました。この間は高校紛争の時期でしたが、持ち前のご誠実さで対処なさいました。ついで四十九年四月から神津高校校長として三年間島嶼教育に専念、五十二年四月文京高校校長として着任され、たまたま同時に私が教頭として赴任いたしました。先生は五十七年三月御勇退までの五年間を文京高校のみならず都や全国の特に理化教育の推進のために御尽力なさいました。御退職後も私立秀明学園の教壇に立たれ、併せて日本理化学協会の本部理事監事として活躍され、六十一年には協会の副会長として重要な仕事を担われて現在に至られたのです。この間東京都理科教育研究会会長をはじめとして種々理科教育に関して中心的な役割りを果たされ、また校長会関係につきましても進路指導委員、委員会長をはじめとして幹事的要職に就かれ、

五十六年度は副会長としてまとめ役を勤められました。

こうした多々の役職を皆様すべてがお認めになられる温厚さと誠実さをもって推し進められ、高校教育にお与えくださったお力は量り知れないものがございます。

ことし四月から先生は茨城県牛久で教壇に立たれ、今もって教育の現場に実践者であられました。八月に東京で開かれました第五八回日本理化学協会総会ならびに昭和六十二年度全国理科教育大会のお仕事として功労者表彰や研究協議での指導など大会要項にはすでにお名前が印刷されておりました。教育の実践者としても指導者としても現役のバリバリでいらっしやいました。八月二十日頃には大会後の宴の席で、お酒は召しあがらないのに穏やかにほ、えまれ、最後までお付きあいくださるお姿に接することができたはずでした。森先生、本当はまだまだ先生のお力を頼りにし、先生の御薫陶をお受けいたしたかったです。今、今もう申し上げますまい。どうか浄土からお見守りください、奥様とお嬢様を、そして私たちを。

ご冥福をお祈りいたします。

昭和六十二年八月二十六日 石川秀次



第二回 現旧教職員の集いで
 挨拶される森 章校長先生
 (昭57・3・5)



走り高飛び 1m70cmクリヤー
 2年 松本英明君



千五百米で頑張る渡辺秀敏先生

母校、校舎の歩み

西岡 弘

前々から、母校校舎の改築が近いのではないかと言われてきました。62年に入り、都立高6校の全面改築の中に、急速母校も入りました。防災拠点校としての使命も兼ねての事です。良い折ですので、今までの歩みを振り返ってみたいと思います。

(一) 東京市の記念事業として開校

母校は、明治以後、初の百年目（昭和15年、紀元二千六百年……当時の呼称）の節目に当り、東京市の記念事業の一貫として、第三東京市立中学校として開校されました。一中は九段高、二中は上野高となっています。都の養老院の跡地で、養育院と同居して、現在地に置かれました。



将来、東洋の指導者として、物理専攻の川島源司校長のもと、理科教育の重大性を考えその充実ははかられました。

(二) 文都省のモデルスクールとして再建

不幸な大戦における戦災により、新校舎用を集められた貴重な木材を含め、すべて灰燼に帰しましたが、昭和26年には、戦後初の文都省による高等学校モデル校として甦りました。

サンルーム兼テラスのベランダを持つ明るい開放的な教室、(文京生の気質にも影響を与えているのではないかと)、当時としては、珍しいサーキュレーターによるガス暖房、波状壁・防音二重窓・吸音材使用の音楽教室、アトリエ風北側採光の美術室、ステンレス調理台・ユニットキッチンの調理室、大型生活ロッカー等、当時としては目を見張る先進的な設備を持ちました。(昭和26年から)

(三) 緑は命……学校をあげて植樹

焼け野原に建てられた白亜の校舎、生き残った樹木は、校門入口の大銀杏、椎の木、ブール横の大ポプラ(落雷により枯死)の三本に過ぎなかった。緑こそ生徒の心に安らぎと生きる命を与えるとの信念のもと、緑化に職員も、PTAも、卒業生も、そして都の公団課の援助もあり、約30年かけて今日の緑に囲まれた学園が完成しました。巣鴨・駒込地区は、江戸以来、東京の園芸の町として栄え、今日でも染井吉野や、つつじなどにその名前

面影をとどめている緑の町である歴史を持つております。駒込の駅や、巣鴨の駅を彩るつつじなど、満員電車の人々の心をどんなにかなごませた事でしょう。今度の新校舎も、歴史をたえず心に刻みながら構想がねられ、65年3月に校舎部分、66年中に体育関係完成予定です。

昭和20年3月全焼のあと、焼けて骨格だけ残った兵器庫を板ばりしての授業、その後、関口台小学校、元町小学校と間借りしての授業、大塚の焼け跡には大塚中学の校舎が一時建てられました。

文京高校は、本郷区に普通中学がなかったの、懇望されて元町小学校に移り、将来は本郷地区に移住する予定でした。小石川区には、小石川、竹早がありました。そうした訳で、新制高校の制度が発足した時、文京高校という名称をつけた訳です。豊島中学であった母校の名称は現豊島高校が使用しています。

その後、地方に疎開してた子供たちも小学校に戻りはじめ、教室も空がなくなり、一時は、元町小学校、文京四中、文京高校と三校が同居するありさまでした。現在中央大学の理工学部が富坂の所にありますが、一時校地の候補にあげられましたが、地下鉄のない当

時としては水道橋の駅から遠く、崖があるなどで決定をひかえました。その後名案もなく、このままでは、大塚の焼跡も中学に割愛しなければならぬ状況になり、急遽、PTAで体育館を建て、大塚の台地への復帰を決めた訳です。

その後、大塚中学の立退きの交渉が大変で、それが決まりかかると、豊島区役所の改築に、中学の校舎を使用したいと申込まれたり、それを断わるのに、当時の校長をはじめ、学校として大変苦労しました。その後、現在のプールの西側バレーコートの方に一部残っておりました養育院の中央児童相談所が移転するので、跡地をと申し出た所、区の方で、保育園を建てたいという事になりました。野球の球が飛んで危いから、保育園は不適格ではないかと交渉しました。約二千平方メートルありましたが、そこを学校に与える代りに、現在の保育園の所、約半分の面積を学校が手放し交換しようという案が申込まれ現在のような敷地になりました。

校門を入って左側、池の一带は、父兄会が購入し、学校に寄付したと聞いてます。

(一期C、国語担当、改築委員長)



千米走
文京名ランナー
高井淑江・富永恵美さん



級団リレー 接戦!

卒業生進路状況 — 1 —

(1) 国公立大(4年)

(62年5月現在)

注：()は合格者の中の推薦合格者数
○は合格者の中の二部合格者数

大 学 名	現 役	浪 人	合 計	大 学 名	現 役	浪 人	合 計
北海道大学		1	1	東京都立大学		1	1
長岡技術科学大学	1		1	東京都立科学技術大学		1	1
埼玉大学	2		2	神戸外国語大学		1	1
千葉大学		1	1	長崎大学		1	1
東京外国語大学		1	1	合 計	4	7	11
東京商船大学	1		1				

(2) 国公立短大(2年)

短 大 名	現 役	浪 人	合 計
電気通信大学短期大学	2(2)		2(2)

(3) 私 立 大 (4年)

(62年4月調)

大 学 名	現 役	浪 人	合 計	大 学 名	現 役	浪 人	合 計
青島女子大学	1	1	1	亜細亜大学	1(1)		1(1)
山梨学院大学	1		1	北里大学	2(2)	1	3(2)
大井川学園大学	1		1	杏林大学	2	1	3
工学院大学	3①	3	3①	学芸大学	2	2①	2①
実業女子大学	1		1	女子大学	1	4	6
女子野野学院	1		1	和洋女子大学	1(1)		1(1)
杉野女子大学	1		1	白和女子大学	1(1)		1(1)
専修大学	2(1)①	2	4(1)①	合衆大学	2		2
大東文化大学	1	2	3	正中央大学	2		2
拓殖大学	5(1)		5(1)	東海大学	2(2)	4	6(2)
東京家政大学	2(2)		2(2)	東京経済大学	1	3	4
東京農業大学	1	2	3	東洋大学	2②		2②
東京理科大学	1		1	東洋女子大学	1	2①	2①
東洋大学	5④	4	9④	日本女子大学	4(1)①	7	11(1)①
日本社会事業大学	1		1	日本女子大学	1		1
本蔵野音楽大学	1(1)		1(1)	日本文学政治学	4(2)	3①	7(2)①
武蔵野大学	1		1	法政大学	2②	2②	4④
立正大学	1	1	2	明星大学	4(3)	2	6(3)
早稲田大学	1①		1①	立正大学	1		1
見学園女子大学	1		1	一工大学	3(2)		3(2)
城西大学	4(3)		4(3)	女子学院	1(1)		1(1)
独協大学	2(2)		2(2)	文教大学		1	1
淑徳大学	2(1)	1	3(2)	千代田大学		1	1
仙台大	1		1	麻立		1	1
常盤大学	1		1	西園		1	1
流通経済	1	1	1	合 計	82(28)②	58⑤	140②⑤

(4) 私 立 短 大 (2年)

短 大 名	現 役	浪 人	合 計	短 大 名	現 役	浪 人	合 計
跡見学園女子大学	6		6	東京女子体育	2(1)		2(1)
桜美女子大学	1(1)		1(1)	東京女子聖徳	3(2)		3(2)
嘉悦女子大学	1(1)		1(1)	東京立正女子	3(2)		3(2)
川村女子大学	3(2)		3(2)	東京洋本	5(4)		5(4)
共立女子大学	1①		1①	日本大経	3(1)		3(1)
国駒女子大学	1(1)		1(1)	富田白学園	5(2)		5(2)
駒形女子大学	2		2	白学園	3(2)		3(2)
沢女学院	2(1)		2(1)	拓聖女子	1①		1①
産業実践	2(2)		2(2)	徳聖学	1(1)		1(1)
実業女子大学	1		1	女子聖徳学院	1(1)		1(1)
淑徳女子大学	1		1	東京女子	2(2)		2(2)
昭和三女子大学	4		4	東洋女子	1		1
和女子大学	1(1)		1(1)	横本女子	2(1)		2(1)
女子野野学院	1(1)		1(1)	日本女子	2(1)		2(1)
聖徳女子大学	1(1)		1(1)	明山	1		1
創生女子大学	1		1	治臨	1		1
田代女子大学	1		1	文治	2(2)		2(2)
帝京女子大学	4(2)		4(2)	リクス		1	1
戸部女子大学	1(1)		1(1)	自治医科		1	1
東海大学	1		1	合 計	77(38)	2	79(38)

卒業生進路状況 — 2 —

(5) 各種・専門学校 (62年4月調)

学 校 名	現役	浪人	学 校 名	現役	浪人
慈恵堂	1		彰練竹		
厚都立	1(1)		馬早山		
順天堂	2(2)		灌静		
豊島医	1		道員		
中国立	1		日本	1	
大東	1(1)		東香		
新東	1		京川		
東東	2(1)		服部		
東国	1		武蔵		
神田	1		野		
東京	2		双葉		
スタン	2		阿佐		
ステ	1		千代		
大原	2		池田		
茶の水	2		本		
東京	2		日		
東京	1		文		
中野	2(1)		七		
日一	3		中		
村早	4		東		
お茶	1		日		
東京	1		音		
東東	1		国		
駿中	2(2)		日		
東東	1		本		
関日	1		京		
読東	1(1)		東		
日工	2		京		
学	1		コ		
			ラ		
			ベ		
			ル		
			・		
			電		
			算		
			工		
			学		
			院		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		
			学		
			学		
			専		
			門		

虎の門日比谷クリニック
(皮膚科・泌尿器科・形成外科)
健保扱い
一期C 山中 秀男

(自)〒152 目黒区日黒本町4-8・20
〒105 港区虎ノ門1-1-20
虎ノ門実業会館5階
Tel(医院)508-2508 (自)714-9518

同窓有志の集い
市 三 会

世話人 一期B 末 正明
一期B 栗原正昭
4期E 榎本幸三

「川島先生回想録」完成!

文京草創期の恩師故川島計治先生の回想録が、62年12月末に、3校(文京・九段・鹿大)の関係者有志により完成します。
同窓の方で、本書ご希望の方は、下記へご連絡下さい。

中村耳鼻咽喉科医院

一期C 中村 信成

〒281 千葉市幕張町6-288-3
Tel(医院)0472-73-7026
(自宅)0472-72-6625

出光ガソリンスタンド
自動車販売整備

飯田橋・神保町

一期B 末 正明

〒112 文京区後楽2-6-1
Tel(会)261-5111 (自)811-0755

〒101 東京都千代田区
神田神保町2の2
(株)未商會内
川島計治先生回想録刊行会
事務局 末 正明 宛
☎ 03-261-5111番
☎ 振替 東京0-26626番
頒布価格(協賛金3000円送料込み)

池谷製作所

(メガネ・レンズ製作)

一期D 池谷 利一

〒160 新宿区大久保2-13-16
Tel(会)209-8631 (自)209-8118

(株)栗原製作所

(各種ディスプレイ企画製造)

一期B 栗原 正昭

〒111 台東区元浅草4-5-5
Tel 841-2515(代)

勝山歯科医院

一期A 勝山 和夫

〒130 墨田区太平3-14-5
Tel(医院)623-6592(自)671-8100

銀座菊地病院・救急病院

(内科・外科・整形外科・皮膚泌尿科)
(婦人科・眼科・人間ドック・検診)

院長・二期A 湖山 聖道

〒104 中央区銀座7-13-15
Tel(病院)541-1151
(自宅)465-6113

八洲印刷K.K.

一期B 川上 光男

〒114 北区王子本町2-11-6
Tel(会)909-3211 (自)815-2839

弁 護 士

一期A 渡辺 剛彰

〒113 文京区西片2-12-23
Tel(事)814-1984 (自)811-7704

医療法人 池袋大久保病院

(内科・胃腸科)

院長

二期B 大久保 宏

〒171 豊島区西池袋1-43-5
Tel(医院)987-3785-7
(自)981-1623

小林学習塾塾長

(小・中・高マンツーマン指導)

一期B 小林(石垣)一夫

〒174 板橋区東山町5-13
Tel 972-1227

豊玉整形外科医院

一期A 鈴木 勲

〒176 練馬区豊玉北5-30
TEL 991-8424

弁 護 士

二期D 原田 策司

〒104 中央区銀座7-5-4 毛利ビル4階
Tel 571-1780(代)
〒145 大田区上池台3-30-1(自宅)

高松診療所

一期B 野久保 泰徳

〒190 立川市高松町2-2-14
Tel 0425-27-3541

三崎町医院

成人病相談

一期B 福山 正臣

〒101 千代田区三崎町2-21-1
TEL(医院)261-7446
(自)904-4844
社会福祉法人 全国ペーチェット協会

<p>弁 護 士</p> <p>18期H 宮 本 智 〒100 千代田区有楽町1-6-8 松井ビル6階 旬報法律事務所 T E L(事務所)580-5311 (自 宅)926-5354</p>	<p>静谷歯科医院 (歯科一般)</p> <p>4期D 静 谷 栄 夫 (午前)〒170 豊島区駒込3-11-3 Tel 9 1 5 - 1 1 0 8 (午後)〒170 豊島区巣鴨3-8-15 Tel 9 1 5 - 0 0 7 2</p>	<p>弁 護 士</p> <p>二期E 早 川 律 三 郎</p> <p>〒150 渋谷区神宮前2-30-5 原宿キャス텔 209号 早川律三郎法律事務所 Tel 475-0330</p>
<p>星野家具店</p> <p>19期E 星 野 久 男</p> <p>〒173板橋区仲宿40-4 Tel 961-9567</p>	<p>弁 護 士</p> <p>7期D 大 辻 正 寛</p> <p>事務所 〒102 千代田区九段北 1-9-14九段ハイム707号 T E L. 239-4099 F A X. 221-9460 自 宅 〒274 船橋市三山1-11-15 T E L. 0474-75-9401</p>	<p>群馬大学教授</p> <p>三期C 木 村 駿</p> <p>〒176 練馬区小竹町2-45 Tel (自宅) 955-2772 (勤務先)0272-32-1611</p>
<p>一級建築士</p> <p>19期I 加 藤 友 和</p> <p>〒115 北区赤羽2-56-10 加藤友和建築設計室 T E L. 903-4710 〒351 朝霞市朝志ヶ丘4-10-13-409 T E L. 0484-74-2085 (自宅)</p>	<p>西武バスKK経理部</p> <p>11期A 松 原 紀 之</p> <p>〒177 練馬区石神井町8-36-12 光ハイツ TEL (自宅)996-5208 TEL (会社)989-3032</p>	<p>産 婦 人 科</p> <p>三期E 小 室 陽 一</p> <p>〒114 北区岸町1-12-22 Tel(医院)907-0303(自)907-0280</p>
<p>㈱AUD建築設計事務所 一級建築士</p> <p>21期C 磯 辺 み ち 子</p> <p>〒154 世田谷区池尻2-35-9 マンション池尻1102 (事) 418-7393 (自) 044-822-3343</p>	<p>下田特許事務所 弁 理 士</p> <p>17期E 大 橋 邦 彦</p> <p>〒171 豊島区長崎2-29-17 Tel (自宅) 957-1533 (事務所) 438-9181</p>	<p>静谷クリニック (内 科)</p> <p>四期B 静 谷 晴 夫</p> <p>〒170 豊島区西巣鴨4-6-2 Tel(医院)910-1136(自)910-1219</p>
<p>南浦和・セキハタ歯科医院</p> <p>21期I 関 端 徹</p> <p>〒336 浦和市南浦和2-7-17 Tel (医院) 0488-86-1818 (自) 0488-87-1758</p>	<p>税 理 士</p> <p>18期C 野 中 滋</p> <p>〒170 豊島区駒込1-3-6-802 中根宏税理士事務所 T E L. 945-8594 自 宅 豊島区東池袋2-52-1 T E L. 982-6492</p>	<p>東京都北区議会議員待遇者 医療法人赤羽病院理事長 王子税理士会顧問</p> <p>税理士</p> <p>四期E はいばら 富士雄</p> <p>〒115 北区志茂1-17-13 T E L 901-8554</p>
<p>斉藤商店(精肉・食品卸)</p> <p>29期 斉 藤 智 夫</p> <p>〒112 文京区白山5-1-15 (会社) T E L 815-5771 (自宅) T E L 815-0029</p>	<p>松栄(靴下・婦人下着小売)</p> <p>18期G 松 井 好 彦</p> <p>〒111 台東区浅草橋1-21-1・松栄 Tel (会社) 866-9711 (自宅) 0473-36-2395</p>	<p>㈱サトウケミカル(入浴剤製造)</p> <p>4期C 佐 藤 佳 男</p> <p>〒352 新座市野火止8-16-7 Tel (会社) 0484-81-2323 (自宅) 0484-74-8456</p>

お詫び…前号で17期E大橋邦彦氏を弁護士と掲載しましたが弁理士が正しいので訂正させていただきます。

昭和62年度
予 算 案

〔取 入〕	8,705,749円
繰 越 金	3,285,740円
利 息	800,000円
会 費 (10,000×435)	4,350,000円
その他 賛助金	240,000円
名 簿	30,000円
〔支 出〕	6,297,000円
経 常 費	4,197,000円
各 部 (名簿・会報各5,000円)	
事務手当(10,000×4)	50,000円
名 簿 (800部+バラ50部)	
@ 2,000)	1,700,000円
会 報 (13,000部 @34円)	442,000円
〃 送料 (70×11,500)	805,000円
〃 宛名書き	120,000円
〃 発送費	100,000円
学校案内 (80×2,000)	160,000円
後援費 (母校・卒業生)	150,000円
通信・交通費	150,000円
運営費	150,000円
幹事会費	60,000円
奨学表彰費	160,000円
慶弔費	50,000円
子備費	100,000円
基本財産	1,500,000円
奨学基金	100,000円
会館基金	100,000円
50周年基金	400,000円
〔繰 越 金〕	2,408,749円

印刷 郵便 一七〇 住 所
振替 〇 豊 島 区 西 巢 鴨 1-1-5
番 号 九一〇 東 京 〇一八二三一
シミズ印刷 東京 〇一八二三一
〇二一六三
一六三
五

住 所
一七〇 豊 島 区 西 巢 鴨 1-1-5
〇 東 京 〇一八二三一
〇二一六三
一六三
五

編 集 長 横 堀 幸 男
副 編 集 長 江 口 和 子
赤 羽 孝 幸
長 谷 川 幸 夫
鶴 巻 栄 一
殿 村 英 嗣
木 村 淑 子
西 岡 碓 友 弘
鈴 木 朝 映
小 甲 和 恵
江 口 和 恵

都立文京高等学校同窓会会計報告
紫 笥 第 30 号
昭和62年12月1日刊

昭和61年度
都立文京高等学校同窓会会計報告

昭和61.5.23~62.5.26の間の会計は次の通りになります。
昭和62年5月31日 会長 渡辺 剛彰
会計 太田 敏美
監査の上、正確であることを認証します。
昭和62年6月4日 会計監査 横沢 靖夫
鎌田 次彦

1. 財産目録 (62.5.26)

イ. 基本財産 (利息の元本繰入れ分9万を含む) 17,500,000円

ロ. 現 金 3,285,749円

ハ. 物 品

①両開き書庫4 ②書類入れ1
③金庫2 ④手提金庫1 ⑤机2
⑥いす1 ⑦ファイル1 ⑧ストーブ1 ⑨カメラ3 ⑩三脚1

ニ. 郵便口座 0円

ホ. 奨学基金 3,163,375円

ヘ. 会館建設基金 2,084,985円

ト. 50周年基金 1,600,000円

2. 現 金 9,130,479円

イ. 収 入 9,130,479円

繰 越 し 2,481,140円

会費(61年度卒9,500×479) 4,550,500円

賛 助 金 70,000円

奨 学 金 10,000円

名 簿 14,500円

郵便振替 977,000円

利 息 763,618円

寄付 (含連絡費) 263,721円

ロ. 支 出 5,844,730円

経 常 費 3,706,730円

各部・事務手当 50,000円

名簿(1,800×800+バラ) 1,523,430円

会報(32×12,500) 400,000円

送料(70×11,032) 772,240円

〃 宛名書き・発送 220,000円

学校案内(76×2,000) 152,000円

後援費 50,000円

通信交通費 149,110円

運営費 127,600円

幹事会費 56,350円

奨学表彰(10,000×16) 160,000円

アンケート用紙 46,000円

基本財産 1,500,000円

奨学基金 138,000円

会館基金 100,000円

50周年基金 400,000円

ハ. 繰 越 金 3,285,749円